

平成5年度
平海政方針



三月定例会市議会に先立ち、大町市長は、平成五年度の施政方針を
発表しました。

はじめに

新たな時代の流れに對して、自治体戦略が強く求められております。県総合開発計画、地方拠点都市基本計画など各種計画との整合性も考慮しながら、本市のあるべき姿を整理すると共に財源対策に配慮した実効性のある事業に取り組んでいきます。

主要課題

都市基盤の整備については、後免町市街地の再開発事業を地方拠点都市整備の中核をなすものと受け止め積極的に取り組みました。市街地再開発のエリアは後免町一丁目の約一・五倍ですが、「再開発事業準備組合」が設立されましたので、まちづくりを先導するモデル地区と位置づけ、基本計画や事業計画づくりに取り組みたいと考えます。

公共下水道については、本年度は荏原分区、後免分区、及び野中第一分区で下水道整備工事を実施するとともに、処理区域住民への説明会、PRに努め、下水道管渠の整備に努めます。

高知空港の再拡張とこれに伴う土地基盤整備については、高知空港の整備は市の発展はもとより県勢浮揚にとつても極めて重要な課題であります。

高知空港再拡張、県物流基地など大型プロジェクトによる農地のかい廃、農業従事者の高齢化、後継者不足などに対応するため、将来にわたって残すべき優良農地の生産性向上のためのほ場整備を中心とした土地基盤整備が急務であると受け止めています。

ほ場整備については、空港周辺の約二百八十ha分について地形図の作成、権利関係調査を行い、合意形成がまとまった地区から順次実施したいと考えます。

四国横断自動車道関連の周辺整備については、南国・須崎間のうち、伊野までの区間については、平成八年度開通を目指して進んでいます。

そこで、市関係の周辺整備については県単補助事業として農道水路改良、砂防事業、および公民館建設工事を計画しています。

司和対策事業については、小集落地区改良事業による市営住宅の建て替えを百二十戸予定しています。本年度は、小山団地、中央団地の住宅二十八戸建築を計画しています。

生活環境の整備については、懸案の新し尿処理施設の建設は、本年度着工、平成八年の運転開始を目指して努力を重ねています。

企業誘致については、出生率の低下、若者の県外流出は深刻な人口減少と高齢化をまねいており、

今年の主な事業

- 発展の基礎づくり (七億四千九百万円)
 - 道路や橋の整備 五億三千九百万円
 - 河川整備ほか 二億一千万円
- 快適な生活環境都市づくり (二十三億四千三百万円)
 - 下水道整備 五億四千八百万円
 - 水道事業整備 三億四千八百万円
 - 清掃対策整備 十一億四千七百万円
 - 公営住宅建設ほか 三億円
- 活力ある産業都市づくり (五億二千四百万円)
 - 農林業の振興 四億五千三百万円
 - 商工の振興 七千百万円



後免町商店街

若者の人口定住を図るためには、就労の機会を拡大していくことが必須の要件であると考えます。そこで、地方拠点都市整備法の産業業務施設、すなわち事務所、営業所、試験研究機関などの集積である通産省のオフィス・ブルカディア事業の導入について努力を払ってきました。現在、産業業務施設立地円滑化調査を実施し、地域振興整備公団の事業実施に向けて積極的に取り組めます。

中小企業については、低迷する構造不況のため深刻な状況にあり、融資制度の創設について市中小企業基本対策審議会に諮問しました。

農林業については、本年度から新しい「水田営農活性化対策」が実施されます。これまでの米の生産調整から政府備蓄米、他用途利用米の確保にも配慮した「県産米づくり」の推進がねらいになつております。

農業者、農業団体の主体的取り組みを基礎に、稲作と転作を迫る望ましい経営体の育成や生産性の高い水田農業の確立を図るよう努めます。

観光については、高速道開通による時間距離の短縮効果で月平均

五万台のマイカーが増加し、西島園芸団地をはじめ、龍河洞、龍馬歴史館への入込客は約一万人増加しています。

市には核となる紀貫之、長宗我部元親、野中兼山、坂本龍馬という優れたキャラクターと歴史がありますので、これを掘り起こしながら、通過点からの脱却をめざし、滞在可能施設とサービスの実施を考えていく必要があります。

保健、医療、福祉の施策については、匡の高齢者保健福祉推進十カ年戦略を踏まえ、老人保健福祉計画を策定中です。

保健福祉センターが完成し、各種健康診査や予防事業の拠点として医療機関をはじめ関係団体との連携、強化をより一層図ると共にきめ細かなサービス体制に努めたいと思ひます。

同時に、国の新規産業でありまた「健康文化と快適な暮らしのまち創造事業」のモデル都市としての指定に努力し、本市の地域文化遺産を生かした健康文化の都市づくりに努めます。

次に、国民健康保険ですが、平成四年度より社会保険診療報酬が平均二割引き上げられました。自然増を含めると療養給付費費用額は前年に比べて一割程度の伸びが見込まれます。

義務教育施設の整備については、厳しい財政状況下ですが、権限事業の日章小学校校舎改築、久礼田小学校の給食棟増設、香長中学校の大規模改造第一期工事を計画しています。

生涯学習については、昨年度策定された「市生涯学習基本構想」を受け、この構想の着実な具体化に取り組むため、基本計画の策定に努めたいと思ひます。

同和教育については、二十一世紀に差別を残してはならないということを基本として、基本的人権の尊重の視点にたった教育活動を実施します。

姉妹都市友好記念事業については、宮城県岩沼市と姉妹都市の縁組みをして、本年七月で二十周年を迎えようとしています。姉妹都市親善協会を設立して市民ぐるみの交流を進めたいと思ひます。

限られた財源の中で、これらの計画事業を推進し、基盤整備や住民福祉、市民サービスの向上を図っていくためには、良質な財源確保はもろろんのこと、いわゆるスクラップ・アンド・ビルドを行い、新規事業経費に振り向ける財源を積極的に生み出す創意と工夫によって財政構造の健全化を目指してまいりたいと存じます。

健康福祉都市づくり (四十八億三千二百万円)

- 児童福祉対策 十七億八百万円
- 身体障害者福祉対策 二億三千万円
- 老人福祉対策 七億三千万円
- 保健衛生 二億六千万円
- 同和対策ほか 十九億三千七百万円

生涯学習の推進と文化都市づくり (五億七千六百万円)

- 日章小学校増設改築など学校施設整備 三億八千二百万円
- コンピューター導入など教育振興 一億三千万円
- オナガドリ保存など文化財保護ほか 六千四百万円



日章小学校

空港再拡張など具体的な論議

三月定例会市議会(第二三八回議定例会)が三月五日に開会、十九日までの十五日間の日程で開かれ、平成五年度南州市一般会計予算など三十三議案を可決しました。

一般質問は九日から十二日までの四日間行われ、竹内、苅谷、山本(弘志)、福田、今西、中村、町田、山崎、井上、池本各議員が、拠点都市に於ける市長の政治姿勢や保健行政などについて執行部の考えをただしました。

基本計画を策定

地方拠点都市へ向けて行う事業、事業費、年度などのスケジューリングはどうか。

事業には大きく分けて六つの柱があります。一、拠点地区をどう整備するか。二、市街地と居住環境をどう関連させるか。三、産業業務施設をどうするか。四、河川整備や下水道などの生活基盤整備をどうしていくか。五、交通ネットワークをどう整備するか。六、学術・教育・スポーツ施設をどう整備するかで、基本計画は約百四十事業、うち南州市に關連するのは三十七事業にのぼります。

個々の事業については、現在各省の意見を聞きながら、実施年度、事業費を決める作業を進めています。

オフィス・アルカディア構想だが、進出してくる企業があるのか。

通産省が十分な見直しを付けて、四国でただ一つ指定したものの、また、税制や融資の上で、優遇措置もあり、久礼田・飯石・植田を含めたハイテク・パークと一体性を持ったものに、進出企業については、日本立地センターで可能性調査などに取り組んでいます。企業の誘致は数年先になります。県・通産省・地域振興整備公団の協力を得ながら取り組んでいきます。

用地買収は市が公団からの委託を受けて行いますが、造成・分譲は公団が行います。スケジューリングは、五年度で地元合意を、六年度で着工を予定しています。

良い企業があれば高知県に残りたい意向が強くなってきており、東工業の卒業生の就職先でも、県内と県外のバランスが逆転し始めているようです。

企業は地の利と人材を求めてやってくる。南州市はその条件を満たしていますので、進出企業については市が主体性を持って取り組んでいきます。

ハイテク・パークの進捗状況はどうか。

面積で五六割の進捗具合です。五人の大口の地権者が残っていますが、今後の生活設計への不安の解消がネックになっています。

後免町の市街地再開発はどうか。

三分の二を超える同意を得ています。都市計画以来二十年間に

もせずに放置されてきたのが、修繕の原因と考えています。

道づくりとまちづくりがメーンとなりますが、まずは、権利調査を行ってからになります。商店街をどうするか、駐車場をどうするか、貸付制度にどうかなどこれから詰めなければなりません。

土地利用の進み具合は

は場整備は関係者の同意が、最大のネック。進み具合はどうか。

岩村では九一割の同意が得られ、具体的な作業にかかれそうです。また、久礼田でも進展しています。

物流基地の進展は

浜改田地区については、交通量の増加、下水・排水の処理などについて、地元が心配しています。県には、三十坪の優良農地を提供する地元の立場に立って、地元の活性化につなげていくよう要請していきます。また、大滝地区は買取準備で進行していないようで、県としては平成五年度には計画の見直しをつけるようです。

空港再拡張についてはどうか。

地元の協議会には、要望に対して二十項目の回答書が示されています。そこには、代替地

や用水の確保、緩衝緑地、生活道、農道のアクセス道への整備などが示されており、県も誠意を持った対応を約束しています。また、前回の既事業の河川改修についても、秋田川については六月に着工の予定です。

空港再拡張だけでなく、東部自動車道でも優良農地がなくなる。ルート変更の申し出をどうするか。

建設者が行うもので、計画決定もされている。優良農地を分断するもので、ルート変更の申し出はしたが困難であるとの答だった。空港再拡張だけでも対応に精一杯の事情を訴えていきたい。

集落整備事業が打ち切りか。

重点配分を行いたいとの県の方針も理解できますが、すでに住民とも約束済みのこともあるようです。行政の連続性を考えてならんらかの移行措置を取ってもらいたい。別の補助事業や有利な起債の適用など、県と協議したいと考えています。

健康文化都市の指定については、厚生省には早くから意思表示をしていましたので、全国二十カ

所の地域指定に本市も入れそうです。三月にオープンする保健福祉センターを核としながら、健康と文化資源をうまく結びつけ、住みやすい街を実現していきたいと考えています。

一般廃棄物処理場建設が先送りになったが、片山の現在地で継続できるのか。

八京に予定している一般廃棄物処理場では、厚生省・自治省にも財源措置を要請しましたが、し尿処理場と並行して整備するのは困難と考えざるをえません。地元の方には理解をお願いします。

久礼田の保育所改築は今年度で、地元も期待していたが、予定していましたが、取得と造成に多額の費用を要し、また建築にも多くの市費が必要。残念ですが、改築工事は次年度で実現できるように努力します。

保育児童の増加と定数にアンバランスが生じている。地元の保育所に入所出来ない事態になっているが、解消の方法は、

保育児童が増加しているのは十六地区のうち大滝・同豊・十市の三地区だけであり、他のところは減少している。人口定住化のなかで解決を図ることが望ましいが、当面している事態については、保護者の利便性を考えたうえ、比較的近い園への通園などの協力をお願いします。

自然と調和したまちづくり
(千三百万円)

「土佐のまほろばまつり」など
ふるさとまつり 五百万円
人材交流ほか 八百万円



可決された主な議案

- 平成五年度一般会計予算 百五十億六百五十九万円 (対前年度比六・三割の増、国参照)
 - 平成五年度下水道事業特別会計予算 七億九千六百万円
 - 平成五年度老人保健特別会計予算 四十五億千九百万円 (対前年度比五・五割の増)
 - 平成五年度住宅新築資金等貸付事業特別会計予算 二億五千二百万円 (対前年度比四一・四割の減)
- これは、小集落地区改良事業などに伴う宅地の取得および、新築住宅の建築件数が減ったため。

南州市保健福祉センター設置 および管理に関する条例

全国的な高齢者の割合が増加するなか、保健福祉施策の推進を図るべく、国の地域福祉推進特別対策事業の指定を受け設置、南州市立高齢者多世代交流プラザ設置および管理に関する条例 新しいコミュニティの形成と人間性の伸長が重視される今日、生涯学習の中心的施設として設置。